

産業廃棄物処理計画書	
令和6 年 6 月 21 日	
(宛先) 長野市長 荻原 健司 様	
提出者	
住 所 長野県長野市中御所3-9-10	
氏 名 日本電設工業株式会社 鉄道統括本部 長野支社長 赤澤 英幸	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 026-227-2200	
産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画について、長野市廃棄物の適正な処理の確保に関する 条例第79条第1項の規定により提出します。	
事業場の名称	日本電設工業株式会社 鉄道統括本部長野支社 長野市管轄内事業所
事業場の所在地	長野市管轄区域内作業場
計画期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日(1年間)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	設備工事業
② 事業の規模	請負完成工事高 2,689百万円(2023年度)
③ 従業員数	58人(2024.4月現在)
④ 産業廃棄物の 一連の処理工程	・ 汚水→脱水 ・ 廃油→油水分離、焼却、蒸留→再生 ・ 廃酸→中和、焼却、奪元、不溶化 ・ 廃プラスチック→破砕、切断、圧縮、熔融、焼却→プラ原料 ・ 金属くず→破砕、切断、圧縮→製鉄原料 ・ ガラス・コンクリート・陶磁器くず→破砕、切断、圧縮→再生碎石 ・ 石綿→熔融、埋立 ・ 紙くず→破砕、切断、圧縮、焼却 ・ 木くず→破砕、切断、圧縮、焼却 ・ 廃アスファルト→破砕

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

廃棄物統括責任者：常務取締役

廃棄物支店統括責任者：鉄道統括本部長

廃棄物管理責任者：鉄道統括本部 総務部長

廃棄物管理責任者：鉄道統括本部 各支社長

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	木くず	廃電池類
	排出量	322.48t	6.80t	83.87t	110.74t	31.90t	0.21t
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管	石綿含有産業廃棄物	水銀使用製品廃棄物			
	排出量	1.98t	0.59t	16.99t			
	（これまでに実施した取組） 当社は、環境保全に関する法令・条例の順守はもとより、産業廃棄物の処理場の視察、排出抑制と適正処理、再資源化率の向上、従業員の教育によるレベルアップに積極的に取り組んでいる。						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	木くず	廃電池類
	排出量	300.00t	5.00t	80.00t	100.00t	30.00t	0.20t
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管	石綿含有産業廃棄物	水銀使用製品廃棄物			
	排出量	1.50t	0.50t	15.00t			
	（今後実施する予定の取組） 環境保全に対する取組体制を構築するとともに、産業廃棄物の適正処理を重点実施項目に掲げて、さらなる質の向上に取り組んでいくこととしている。また、当社が設備工事業として環境保全の重要性を認識し、環境に配慮した取組を継続的に推進していくことを明確にするため、環境方針を策定して社内に周知するとともに、当社ホームページ上（CSRの取組）に公開している。						

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 処理委託先の施設の視察を行い、その処理施設に見合った分別を再確認。外部機関が行う、産業廃棄物の減量及び適性に関する研修を受講。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 処理委託先の施設の視察を行い、その処理施設に見合った分別を再確認。外部機関が行う、産業廃棄物の減量及び適性に関する研修を受講。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	木くず	廃電池類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管	石綿含有産業廃棄物	水銀使用製品廃棄物			
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量						
	(これまでに実施した取組)						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	木くず	廃電池類
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管	石綿含有産業廃棄物	水銀使用製品廃棄物			
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量						
	(今後実施する予定の取組)						

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	木くず	廃電池類	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量							
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量							
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管	石綿含有産業廃棄物	水銀使用製品廃棄物				
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量							
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量							
	(これまでに実施した取組)							
	②計画	【目標】						
		産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	木くず	廃電池類
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量								
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量								
産業廃棄物の種類		建設混合廃棄物(安定型、管	石綿含有産業廃棄物	水銀使用製品廃棄物				
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量								
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量								
(今後実施する予定の取組)								

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項							
①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	木くず	廃電池類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管理	石綿含有産業廃棄物	水銀使用製品廃棄物			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量						
	(これまでに実施した取組)						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	木くず	廃電池類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管理	石綿含有産業廃棄物	水銀使用製品廃棄物			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量						
	(今後実施する予定の取組)						
産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス フェルト、レンガ	ガラス・コンクリート・陶磁器く ざ(石膏ボード含	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡 スチロール含	金属くず	木くず	廃電池類
	全処理委託量	322.48t	6.80t	83.87t	110.74t	31.90t	0.21t
	優良認定処理業者への処理委託量						
	再生利用業者への処理委託量	322.48t	6.80t	83.87t	110.74t	31.90t	0.21t
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管理 型)	石綿含有産業廃棄物	水銀使用製品廃棄物			
	全処理委託量	1.98t	0.59t	16.99t			
	優良認定処理業者への処理委託量	0.03t		16.77t			
	再生利用業者への処理委託量	1.95t		0.22t			
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
	(これまでに実施した取組) 当社は、環境保全に関する法令・条例の順守はもとより、産業廃棄物の処理場の視察、排出抑制と適正処理、再資源化率の向上、従業員の教育によるレベルアップに積極的に取り組んでいる。						

②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリート、廃アスファルト、レンガ)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(石膏ボード等)	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡スチロール等)	金属くず	木くず	廃電池類
	全処理委託量	300.00t	5.00t	80.00t	100.00t	30.00t	0.20t
	優良認定処理業者への処理委託量						
	再生利用業者への処理委託量	300.00t	5.00t	80.00t	100.00t	30.00t	0.20t
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管理型)	石棉含有産業廃棄物	水銀使用製品廃棄物			
	全処理委託量	1.50t	0.50t	15.00t			
	優良認定処理業者への処理委託量	0.50t					
	再生利用業者への処理委託量	1.00t		15.00t			
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
	(今後実施する予定の取組)						
	環境保全に対する取組み体制を構築するとともに、産業廃棄物の適正処理を重点実施項目に掲げて、さらなる質の向上に取組んでいくこととしている。また、当社が設備工事業として環境保全の重要性を認識し、環境に配慮した取組みを継続的に推進していくことを明確にするため、環境方針を策定して社内に周知するとともに、当社ホームページ上(CSRの取組み)に公開している。						
※事務処理欄							

(第6面)

備 考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が500トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が12以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。
また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 1

産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

処 理 事 項		産 業 廃 棄 物 の 種 類												合 計
		がれき類 (コンクリが ら、廃アス ファルト等)	ガラス・コ ンクリート・ 陶磁器くず (石膏ボード等)	廃プラス チック(廃タ イヤ、発泡 スチロール等)	金属くず	木くず	廃電池類	建設混合 廃棄物(安 定型、管理 型)	石綿含有 産業廃棄 物	水銀使用 製品廃棄 物				
排出抑制に関する事項	前年度排出量(実績)	322.48t	6.80t	83.87t	110.74t	31.90t	0.21t	1.98t	0.59t	16.99t				575.56t
	本年度排出量(計画)	300.00t	5.00t	80.00t	100.00t	30.00t	0.20t	1.50t	0.50t	15.00t				532.20t
自ら行う(行った) 再生利用に関する事項	前年度実績													
	本年度計画(目標)													
自ら行う (行った) 中間処理 に関する 事項	自ら行う (行った) 熱回収の量	前年度実績												
		本年度計画(目標)												
	自ら中間処理 により減量 する(した)量	前年度実績												
		本年度計画(目標)												
自ら行う(行った)埋立処 分又は海洋投入 処分に関する事項	前年度実績													
	本年度計画(目標)													
処理の委託に関する事項	全処理委託量	前年度実績	322.48t	6.80t	83.87t	110.74t	31.90t	0.21t	1.98t	0.59t	16.99t			575.56t
		本年度計画(目標)	300.00t	5.00t	80.00t	100.00t	30.00t	0.20t	1.50t	0.50t	15.00t			532.20t
	優良認定処理業者 への処理委託量	前年度実績						0.03t		16.77t				16.80t
		本年度計画(目標)						0.50t						0.50t
	再生利用業者への 処理委託量	前年度実績	322.48t	6.80t	83.87t	110.74t	31.90t	0.21t	1.95t	0.22t				558.17t
		本年度計画(目標)	300.00t	5.00t	80.00t	100.00t	30.00t	0.20t	1.00t	15.00t				531.20t
	認定熱回収業者へ の処理委託量	前年度実績												
		本年度計画(目標)												
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	前年度実績												
		本年度計画(目標)												

【記載方法】

- ・ 各産業廃棄物の種類ごとに該当の箇所の上段に前年度の実績（現状）を、下段に本年度の目標（計画）の産業廃棄物の量を記載してください。
- ・ 「自ら行う再生利用に関する事項」の欄は、自ら直接再生利用した量と中間処理した後再生利用した量を記載してください。
- ・ 「自ら行う埋立処分又は海洋投入処分に関する事項」は、自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量を記載してください。
- ・ 「処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量及びそれぞれの内訳を記載してください。